

開拓伝道時代の特別伝道集会 1952～1954

仙台教会の歴史シリーズ その8

小林孝男

グラント宣教師の仙台における開拓伝道時代、精力的に特別伝道集会（以下特伝）が開催されていました。“どの特伝も大盛況で多くの決心者を生み出し、大きな成果が得られた”、などとは残念ながらいきませんでした。福音の種を弛むことなく播き続け、いつかどこかで、何粒かの種から芽が出ますようにと祈りつつの特伝だったのです。1952（昭和27）～1954年（昭和29）に行われた特伝について、資料を辿ってまとめてみます。

1. 仙台開拓伝道のキックオフイベント 1952年

1952年（昭和27）11月の特伝は、正に仙台開拓伝道のキックオフイベント的性格を持つものでした。「仙台での開拓伝道スタート 1952（仙台教会の歴史シリーズ・その3）」で若干触たように、初期の貴重な資料である「伝道所沿革」¹には、不明確な部分が含まれており正確なところはよく分かりませんが、次のように記録されています。「昭和27年 11月7日-11日 グラント師、アスキュー師、長崎牧師、眞鍋氏の四名により初めて市公会堂に於て特別伝道集会を行う」。「11月7日-11日」については、以前述べたように、金曜日から火曜日の日程になりますので、正しいかどうか確かなところは分かりません。三日間の特伝だったとしている資料もあります。「長崎牧師」の名前が載っていることについては、1953年2月の着任を前に仙台の下見と事前準備を兼ねてお招きしたということなのでしょう。「アスキュー師」とは広島で働いていたカーティス・アスキュー宣教師²、「眞鍋氏」は眞鍋長次郎氏³で、初期の連盟事務所で主事や視聴覚担当主事の働きを担った方です。

2. 連盟の大物牧師を招いて 1953年

1953年（昭和28）は「3月 木村牧師により、5月 大谷牧師により特別伝道集会行わる」と記録されています。これだけでは「木村牧師」「大谷牧師」を特定することはできませんが、その時代の日本バプテスト連盟の中で、木村と言えば木村文太郎、大谷と言えば大谷賢二の名前が思い浮かびます。恐らく間違いのないでしょう。

3. 波状的に特伝実施 1954年

1954年（昭和29）は3回特伝が行われました。1回目は5月9～11日の三日間で、在日バプテスト宣教団代表エドウィン・B・ドージャー師⁴が講師です。5月12日の河北新報の夕刊には、「たくみな日本語を用いてユーモアとゼスチュアにとんだ話しぶりには親しみを覚えた」との記者のコメントと共に、話の内容が詳しく掲載されています⁵。2回目は6月下旬に立石牧師夫妻を迎えて行われ、3回目の特伝は新会堂献堂式が行われた11月7日から12日まで行われました。11月8日の河北新報の朝刊には、献堂式の報告と共にご親切にも特伝の予定が掲載されています⁶。

「伝道所沿革」によれば、この特伝について「講師 三善牧師、ギレスビー師、ジャクソン師、真鍋氏（映画） この頃より教会組織への意識会員間に高まる」と記録されています。「三善牧師」とは三善敏夫牧師⁷のことであり、「ギレスビー師」はアルフレッド・ギレスビー宣教師⁸で、1946～1977年まで日本で働き、大阪教会の設立にかかわった宣教師です。「ジャクソン師」はダブ・ジャクソン宣教師⁹。米国空軍戦闘機部隊に所属し、戦後マッカーサーの護衛任務で来日、賀川豊彦や先輩宣教師との出会いを通して献身を決意し、帰国後神学校へ通い、卒業後1951年（昭和26）に再来日、旭川教会や東京バプテスト教会設立に貢献した宣教師です。

4. グラント宣教師の下でのバプテスマ

なお、開拓伝道開始から教会組織までの間に、グラント宣教師の下でバプテスマを受けた方の数をまとめると、次の様になります。着任した1952年（昭和27）こそ0名でしたが、1953年（昭和28）はグラント宣教師の7才の次女エンジェラを含め3名、1954年（昭和29）は20名、1955年（昭和30）は2月までに4名となります。そしてバプテスト系の他教会からの転会者7名と、再バプテスマ¹⁰を受け転会した2名、更にグラント宣教師夫妻と来日前に既に6才で受浸した長女ダーナの3名を加えた39名で、1955年3月25日に日本バプテスト仙台基督教会を組織することになります。

¹1955年3月25日に教会組織を行うにあたり準備した資料であろう。但し、これはそのオリジナルの資料ではない。教会組織以降の情報が書き加えられている部分があるからである。

²『主の息吹の中で』26頁、<https://www.legacy.com/us/obituaries/abqjournal/name/curtis-askew-obituary?id=8774982> (閲覧日:2023/1/25)

Curtis Askew は 1947～1972 年の間宣教師として日本で働く。2 年間の語学研修後、広島教会に着任。1921/12/27 生、2017/8/6 召天

³『日本バプテスト連盟五十年史』552～553 頁

⁴ Edwin Burke Dozier、日本バプテスト連盟の設立(1947)や、南部バプテスト連盟外国伝道局の日本での働きに、重要な役割を担った人物。1908/4/16 生、1969/5/10 召天

資料(1997/09/10_連盟結成に至るまで_日本バプテスト連盟五十年史)9 頁、「マッカーサー司令部付チーフチャプレンの要請に応え、南部バプテスト連盟外国伝道局は、特命特使として E.B.ドージャーを日本に派遣、状況視察と新たな教団設立の可能性を探る」

⁵資料(1954/05/12_ドージャー師の講演_河北新報夕刊)

⁶資料(1954/11/08_献堂式_河北新報朝刊)

⁷資料(1995/03/26_献堂四十周年記念誌)5 頁、西南学院大学神学部長(当時は、西南学院大学文学部神学科長)。なお、仙台教会元牧師・金子純雄先生が、1947 年にバプテスマを受けた際の授浸牧師である。

⁸ Alfred Leigh Gillespie

⁹ <https://www.baptistpress.com/resource-library/news/william-dub-jackson-missions-pioneer-dies-at-95/> (閲覧日:2023/1/25)

William ‘Dub’ Henry Jackson Jr. は 1951 年に宣教師として来日。フルタイムの宣教師だけでなく、一般信徒を短期宣教師として派遣し伝道するいわゆるパートナーシップ・ミッションの指導的立場にあった。1924/4/23 生、2020/1/19 召天

¹⁰ 旧メソジストと旧日本基督教会からの転会者 2 名は再度バプテスマを受け、またバプテスト系の教会からの転会者 7 名はそのまま転入した。